

入 選

縁の下の力持ち

水戸市立第四中学校

三年 山 田 和 香

水は目立ちません。この機会に水について考えてみて、こんな言葉を思い出しました。それは、「水は縁の下の力持ち。」という言葉です。これは、水は普段目立つことはないけれど、無いと絶対に生活できないということを表しています。例えば、手などの汚れを落とす時、料理をするとき、洗濯だってできません。それなのに、日本で暮らしている私たちが「水」についてその貴重さや大切さを考えることはほぼありません。

まず、水道水が飲めるという概念は当たり前ではありません。そんな国は世界でたった十五か国しかないと言われているのです。世界では約二十二億人もの人々が安全な水を使えていないことになりました。

私たちが住んでいる日本は世界一といわれるほど水道水がきれいです。それは、水質の基準がとても厳しく設定されているからです。その基準というのは法律で定められていて、第一に「水道水を生がい飲み続けても人体の健康に全く悪影響がないこと」というのが絶対条件だといわれています。そのため百項目以上の条件を日本の水道水はクリアしています。それだけしなければ飲める水道水は得られないということです。開発途上国の中でも特に開発が遅れている国々や農村部では危険ととなり合わせの水を使用しています。そのような国での水はじゃ口をひねるのではなくくみに行くものです。けれど一日のほとんどを費やしてくむ水はほとんどが汚染された水です。その水で命を落とす子供の可能性は紛争などがある地域では暴力で命を落とす可能性よりも高いとされています。それから、水不足は貧困などにも影響してきます。水くみに追われる人々はそれだけで時間をうばわれ、十分な教育を受けることもできません。そのせいで私たちが当たり前に語る将来の夢をみることもできないでいるのです。水の問

題は単に水を使うときに困るだけでなくその先にある人々の人生に関わってくる問題だといっても過言ではないでしょう。

私はこれまで海外に行つて水不足を体験したことは一度もありません。けれど日本に住んでいて一度だけとても水に苦労したことがあります。それは、東日本大震災での出来事です。私はそのときはまだ幼稚園生だったのに、いつも普通に使っていた水がいきなり使えなくなつたのはあの頃の私にも衝撃的でよく覚えています。私の家はお風呂に水をためていてそれを少しづつ使っていました。トイレをするときなども自分勝手には出来なくて流すのもお風呂にためた水をバケツでくんで流していました。それでも、その水を飲むわけにはいかないので料理は全くできなくてお風呂やシャワーを使えない日は何日も続きました。けれど、それはやはり一時的なことであつてそれが日常の出来事であるのとはわけが違います。きつとこの日本に住んでいればどんなに貧困に苦しんでいる人でも水不足の国に住む人たちよりは水に恵まれていると思いません。私はこの出来事

を思い出した今、絶対に水が貴重であることを忘れてはならないと強く思いました。

水は目立ちません。きつとこれから水が人々の先頭に立つような画期的な進化を遂げない限りそのままだと思います。それでも、ふとしたときに考えてほしいのです。ただ一時だけでも、水を使えることに、その環境が恵まれているということに気付いてくれたらいいなと思います。「縁の下の力持ち」がそれだけで終わらないように小さな輪からでも水の大切さを広めていくことができればと思います。